

海軍語録に学ぶ

koberyo1

①「人を頼りにすることは基本的にしない」

わたしは常にどんなことでも自力で頼りになる自分を作ってきた。仕事は自分で時間を定めて創意工夫をしながら前向きに処理をしてきた。人間は何をやるにしてもよく考えなければいけない。そしてどんなことがあってもマイナス思考はいけない。人間たるべき努力は常にすべきであると思う。

②「誠（まこと）のない行動はするな」

善い、と思うことは、どんな小さなことでもやるべきだ。悪いことや誠のない行動はすべきでない。艦（ふね）に乗っているときは注意を怠らず、自分の良心を発揮して行動を律しなければいけない。

③「人の長所を読み、心脈を作れ」

人脈を作ることはできても「心脈」をつくることはむずかしい。これは突然できるものではない。時間をかけて人の長所を読む人になれ。

④「効用の活用ができる頭になれ」

田舎の家には廊下があって、一見ムダに見えるがそうではない。ひろい縁側は食堂になり、また応接する場にもなったし（「鬼平犯科帳」をみよ）、夕涼みの場所にも変化した。そして子どもの遊び場にもなる。頭の堅い使い方は進歩がない。やわらかい頭に変化せよ。

⑤「品格のある娯楽をやれ」

酒が入ったり、宴会の場では「品格」を失う行動をする者がいるが、酒にのまれてはいけない。酒は楽しいものであるべきだ。他人に迷惑をかけないことや、長時間を要しない。健康に悪くない娯楽でなければならない。

⑥「温室無大木、寒門有硬骨」

「温室育ちでは、けっして大木に育つことはない。風雪に耐えてこそ、はじめて頑丈

な木が育つものである。人間も同じで、人間を甘やかしてはダメで、厳しく鍛錬しないと本当に意志の強い、しっかりとした人間に育たない」といった意味である。

⑦「一源三流に哲せよ」

わたしは「一源三流」とは、「正義のために血を流し、自分のために汗を流し、人のために涙を流すことである」と解釈している。すなわち人間がその体に共通して持っている「血」と「汗」と「涙」の三つの流れのことであり、そう考えるなら、汗や涙はともかく、血だけは流してはならないものである。

しかし自分が、家族が、国が、郷里が危ないと思う事態が生じたなら血を流してでもそれを守る気概がなくてはならない。

汗は勤労精神をあらわすから大いに流してでもよろしい。涙は人間の感情をあらわすものであるから、感情豊かな表現を身につけるべきである。すなわち血と汗と涙を正しく流すことが大切で、この考えが人間として「人生の価値ある過ごし方」に通じると解釈している。

⑧「躰教育の精神15カ条」

(1)「五分前」にはスタンバイの精神

(2)いつでも「出船」準備完了の精神

(3)公私の別とケジメの精神

(4)旗艦先頭率先垂範の精神

(5)若さと熱と意気の精神

(6)清廉潔白の精神

(7)謙虚と礼儀の精神

(8)自啓自発の精神

(9)旺盛な責任観念の精神

10.すすんで難事にあたる精神

11.縁の下の力持ちと犠牲の精神

12.熟慮と決断の精神

13.整理整頓の精神

14.テーブルマナーと一流店の精神

15.「言い訳せず」の精神

⑨「錨の役割」

「錨」というものは、鎖につながれた強靱な鉄の塊である。アンカーともいう。みずからは人の目に触れることはないが、大きな役割を担っている。どの艦にも絶対欠かすことのできない、もっとも大切な役割を果たしている。

海軍伝統の犠牲的精神の象徴が、この「錨」のマークである。我々もこの「錨」のような役割を各人が果たすべきであると考えます。

10.「教育の本質を知れ。それは厳しいものであるとの自覚」

最近、日本では、学校教育においても、社会教育においても、昔の厳しい方法がとられていない。

そのため身も心も弱く、躰を身につけることができず、行儀が悪いのが当たり前の風潮となっている。これでは本人のみならず、日本の将来がおもいやられる。

そこで一層、鍛錬することのひつようを感じる。鉄は熱いうちに鍛えると同じだ。人間も若いときに鍛えなければものにならない。

現代の子どもたちは経済的に恵まれすぎ、なんでも欲しいものが手に入る世の中になったが、苦勞するということを知らない。これではしっかりとした人間はできない。

参考資料. 「海軍名語録」上村嵐著、清和会出版部